

夢 塾 だ よ り

～ 未知との遭遇 ～

(第40号) 令和2年 11月 27日

65歳からでも進化できるものがあることに気がついた。今までの私のギター演奏スタイルは、ひたすら暗譜し覚えた通り弾くという方法だった。10代の頃からクラシックギターを独学で始めた。弾きたい曲を音源から耳コピーする。音を覚えた後で楽譜を見て、音を確かめる。音の高さや長さを譜面から後づけする方法であった。いわゆる『楽譜が読めない』ギタリストだった。ところが、この歳になって楽譜の読める自分を発見したのです。今まで自分には楽譜を読むのは無理だと決めつけて、諦めていたことが原因かもしれない。

ギターの楽譜にはピアノの左手用のへ音記号の譜面がないことも幸いしている。練習曲のことをエチュードというが『カルリ』のエチュードはどれも曲としての完成度が高く、弾いていて気持ちがよく楽しいものばかりだ。今は、朝といわず夜といわず、いつでも時間を見つけて手に取り、今までになかった新鮮な気持ちでギター曲を楽しんでいる。



ピアノは鍵盤と向かい合い対峙して弾きますが、ギターは人間と同じ正面を向いて弾くという違いがある。一体化する。「人馬一体」といった感じがギターだ。今まで耳にしなかった「エチュード」は私を見知らぬ国の新鮮な空気のある素敵な場所へといざなう。オリエント急行列車の車窓から、次々と変わる景色に目も心も奪われる。列車の流れに身をゆだねる心地よさのようだ。

この喜びを65歳で知ったのはこれから新しい世界が始まるようで嬉しい。夢中になれる何かを持っている人には幸せな日々が待っていてくれる。

もう一つの遭遇。それは、約25年もの間、一日たりとも禁酒ができない習慣だったが、耳の手術のおかげで飲まないでいる日も容易につくれ、アルコール依存からも脱却できた。すべてにおいて「できない」という先入観と思い込みこそが進化を阻害していることに気づいた。人間の進化の辞書には『遅い』という文字はない。